

## 第4回HAMURAメリーリボン演劇祭

1 目的 羽村市が中心となり、多摩地域で活動する演劇関係者及び活動支援者が一堂に会することのできる機会を提供することで、関係者同士の交流を図り、演劇の質の向上及びその発展、並びに文化の創造と高揚を図ることを目的とする。

(実施経緯) 市内の中学校の演劇部をはじめ、アマチュア劇団は活動の成果を発表する機会が少なく、また、公演では集客に苦勞している実情がある。関係者は努力をしているが、劇団のメンバーは若者や高齢者で、運営面では財政的余裕がなく、宣伝、会場確保に経費をかけるのが難しい状況にある。これらの現状から、教育委員会として一層の演劇活動の発展及び若者などの活動を支援するため演劇祭を企画し、会場の提供及びチラシなどの経費を公費で負担するなど取り組みを進め、平成28年度の第1回では5団体であった出演団体も第2回目では9団体、第3回では11団体となり、それに合わせて開催日を2日間にするなど各回とも盛況に実施することができた。

(意義) 羽村市生涯学習基本計画の中で羽村市の目指す生涯学習として掲げている「生涯学習を通じたまちづくり」の実現として、「特色あるテーマを持った事業の展開」がある。一つの「テーマ」や「共通した目的」を柱に、そこに携わる人の心の豊かさや地域への愛着を深め、人と人との輪をひろげ高めあうことにつなげるとある。それは、地域人材の育成につながり、地域コミュニティの活性化に寄与すると考えられる。

現在、音楽は「音楽のあるまちづくり」として活発な活動がみられる。その音楽に個々に活動している様々なジャンルの学習・芸術を融合させることでオペラ、ミュージカルなどのひとつ上のステージである総合芸術に発展していくことをめざす過程として「演劇」をテーマの一つとし、HAMURAメリーリボン演劇祭を開催していきたい。このことは新しい羽村の文化として「羽村の新たな魅力づくり」、文化の醸成につながると考える。

これまでのHAMURAメリーリボン演劇祭では、ライフステージにおける少年期の中学生団体、青年前期の高校生団体、青年後期の一般団体、ゆとりぎの講座から社会教育関係団体を立ち上げた高齢期の団体が参加した。特に第2回では高校の演劇部が3校に増えた。

生涯学習を推進する上で課題とされる特に16歳から22歳の青年前期及び23歳から39歳の青年後期の市民の参加が得られたこと、もう一つの課題として揚げられる団体におけるメンバーの固定についても、同じ趣味嗜好を持つ、異世代の交流がこの演劇祭で生まれたこと、また、市と協働で成し得たことは、羽村市の目指す生涯学習としても開催意義は大きい。

また、今後も、出演する者、見学する者と共にとっても貴重な存在に成り得るこのHAMURAメリーリボン演劇祭を盛り上げていきたい。

2 名 称 第4回HAMURAメリーリボン演劇祭

\*メリーリボンの意味

メリー：陽気な 笑い楽しむ お祭り気分の

リボン：出会 絆 結びつき

全体の意味としては、演劇を通して人と人が出会い絆を強くすることで、陽気で元気になる時間と空間をプレゼントする。

3 実施日 2019年7月20日（土）、21日（日） 予定

4 会 場 羽村市生涯学習センターゆとろぎ 小ホール（252席）

5 対 象 多摩地域で活動している学校の演劇部および演劇団体

6 内 容

- ・演劇の上演、鑑賞
- ・参加費（団体）：無料
- ・入場料：無料
- ・第1回出演団体（平成28年度）：5団体  
羽村市立羽村第一中学校演劇部・都立羽村高等学校演劇部・  
演劇集団銀のすず2号・劇団宙・劇団マイスター
- ・第2回出演団体（平成29年度）：9団体  
羽村市立羽村第一中学校演劇部・都立羽村高等学校演劇部・  
都立五日市高等学校演劇部・都立福生高等学校演劇部・演劇集団銀のすず2号  
劇団宙・劇団マイスター・劇団さんまるはち・朗読劇ひびき
- ・第3回出演団体（平成30年度）：11団体  
羽村市立羽村第一中学校演劇部・多摩高等学校演劇部・五日市高等学校演劇部  
朗読劇ひびき・（ひろ+たく）企画・演劇集団銀のすず2号・  
福生高等学校演劇部・劇団 マイスター・羽村高等学校演劇部・  
劇団さんまるはち・劇団宙
- ・運営スタッフ（当日までの準備や当日運営のサポート）の募集及び活用

7 主 催 羽村市教育委員会